



SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No.20
2000年2月

デザイナーに出来ること

岡村 筈

いよいよ2000年の幕が上がった。ミレニアムという言葉が其処此処に目立つがもともと1000年紀とは聖書中の言葉なのだが、クリスマスやバレンタインデーと同様日本では何の抵抗もなく使われている。



今年は辰の年で、中国の古い伝説によると魚が黄河を逆登り激流を通過すると龍になると言われている、その龍の年がやって来た。登竜門の言葉通りだとすれば、ここ数年の激流は正に黄河の激流を通過しているのかもしれない。東西どちらの説にせよ、今年こそ佳い年になってほしいものである。

先頃「デザインは儲かる」という言葉を残されたサントリーの佐治さんが逝くなられた。一つの時代の言葉であったように思う。その反面今の世の中ではデザインは腹の足しにならないかの如く言われている向きもある。今こそデザイナーがデザインの本来の意味に立帰り、熱心にその職務に当たらねばいけないと思う。

文化創造の荷負い手としてのデザイナーは、益々マスプロ化する世の中であって、人が生きて行く中で何が生き甲斐なのか、大きなうねりの中にとすると、呑込まれようとする個性をいかに発揮して、人間らしい豊かさを創って行けるか真剣に考えたい。冷えきった世が来ると真先にカットされるのが文化なのだが、直接腹の足しを考えるその先にあるものは夢と希望ではないか。発信者となるのはデザイナーなり。先ず心を起こそう。

一方いくら説いてもそれを受け止める理解者がなければ馬の耳に念仏というものだ。ものを企てるときに真すぐの心で、出来る限り大きな心で大きな目標に向かって取組みをする。この事が何より大切なのだと我々の側からも布教活動をしなければいけない。創造することに慣れていない人々にとっては考え方の設計者は苦手である。世の中に物づくりの人とそうでない人が

半数づつ居るとして、その半数の物造りの人種の又9割は形のある物造りで、無から有を考え出せる人即ち創造者なる人はほんの少ししかない。解り易い言葉で、具体例を上げて目標づくりの大切さを布教する。これはデザイン協会に課せられた大きな仕事だ。

デザイナーの環境とは別に、デザインの製作手法が大きく様変わりしてきた。情報や伝達手段がコンピューターのお蔭で加速的に速くなった。瞬く間にインターネットが普及し、世の中がいわばコンピューターの発展に追随した形で動いて行く。販売や金融、日常生活のあらゆるところでコンピューターの管理下に入る。そこから生まれたハッカーなる人種がゲーム感覚で世界を忽す。今世界戦争が起これば相手側のコンピューターをターゲットとして攻撃するという。どうしてこのような事が起こってきたのか。刀で切りつけても銃で撃たれても肉体は痛い。コンピューターのモニター上では皆虚の世界で何の人的感情もない。この辺りに大いなる落とし穴があるように思う。しかしこの便利な道具は我々の仕事の上では革新的な手法としてアツと言う間に今までのやり方にとって変わった。前述のいい事も悪い事も、もとはと言えば人間のする事、言い換えれば人間しか出来ない部分でそれを誰がするかによって善くも悪くもなる。最後に人が残る。

堺は今「堺の顔」を考えている。今更と思われるかもしれないが市章とロゴタイプ、シティーカラーの取り決めをしようとしている。周辺の市や町も盛んに我が街カラーを出そうと頑張っている中、町村合併が拍車を掛け、地方分権が後押しする。小さい町では隣の町に呑込まれまいと個性化を考えている。その点我が街堺は、他都市に比べて永らく大阪市の衛星都市で来たため独立意識がすこぶる欠如している。人口数が少し大きすぎるのも災いしている面もあるが、文化と伝統を掘り起こせば日本全国どの街にも負けないものを持っている。進取の気概と往時の文化を受継ぐ血が堺人の中に脈々と流れている。世界の文化遺産仁徳陵、環濠都市堺を見つめなおすよいチャンスではないか。

世の中の不安を取り除くこと、それは確かな手ごたえある目標に向って一生懸命になれることではないか。

今、平安時代へのあこがれ

後藤隆平伊

明治以来の日本のアートの世界では常にヨーロッパのアートが、お手本として注目されてきました。(これは、すべての文化に共通して言える事かもしれませんが。)そして又、最近では、アジアのアートが注目され話題となってきたようです。日本の文化は、奈良時代に大陸から大きな影響を受けましたが、平安朝の頃にはそれが消化され、日本独自の文化が花開いたように思われます。源氏物語や仮名で代表されるような他にない独自の文化やアートが作り出されました。そして長い戦乱の世を経て江戸時代には、民衆の中に独自の文化・アートが栄えました。浮世絵などその代表的なものでしょう。しかし明治以後は欧米や他のアートの世界の影響ばかりうけ、日本のアートの独自性は影がうすれたようです。戦後半世紀を経て、平和と繁栄の時代が続いてきたようですが、それは物質の面のみで果して精神的に豊かになったか、どうか？文化・アートの世界で、他にない日本の独自性が成長したか、どうか？非常に疑問です。すべて個性のない植民地的、折衷的なものになりつつあるような気がします。日本には欧米とは異なり、又アジアの他の国とも異なる独特の貴重な感覚があると思われます。これからの日本のアートには、そのことを見逃せない要素だと思います。そのような意味で平安朝の華麗な文化に、あこがれと畏敬を感じます。



堺の町角で

川崎 浩



この数年、一条通りの医者に通っている。自転車での往復で見かけたのがこの写真である。斜めの角地にあるタバコ屋で、とがった角地に石を積んで防護壁としている。セメントで固め、上に鍍でざっと彫を流しているが気になっていた。先日写真を撮った時、店番の婦人に声をかけた。「あの彫刻は…」「あれは死んだおじいさんがしました」「貴女のお父さんは彫刻左官やったんですか」「そうです。腕が良かったとゆうてました」後日、四ツ切に伸ばした写真を持って「お供えて下さい」「九十三になった、おばあちゃんも喜んでくれますやろ」月に2回、行きと帰りで4回、もう300回近く見ているわけであるが。写真の裏には次のように書いておいた。

忍冬文 (にんどうもん)

忍冬(すいかずら・honeysuckle)の花・蔓を図案化して連結したもので、エジプトに起りギリシャ・ローマから中国を経て、佛教伝来とともに我が国に、もたらされた。そのために唐草模様と言われる。



特定サービス業の内《デザイン業》の調査報告

通産省大臣官房調査統計部の報告

デザイン業は分野も広くなり、競争も厳しく多く、事業者施主やスポンサーの複合する要望に応えるため、ソフト面でも、多くの投資をしなければならなくなっています。建設関係の不況、新規ソフト集団からの参入もありまして、多様になって分かりにくいデザイン界になっている、ともいえます。川崎 浩さんから資料の提供を受け、3年毎の調査の内、平成7年度と10年度の報告を見て、一考をしてみたいと思います。

調査対象区域、方法と対象者と総数

- ▲全国の市制（特別区を含む）を引く区域に存在するデザイン業を営む事業所を対象に、調査を実施した結果である。
- ▲総数は電話帳登録を中心に団体所属などにより調査をしたらしい。（統計法・指定統計規定に元づく調査方法・・・通産省官房調査室のお話）
- ▲デザイン業は3年毎に調査する業種であるが、毎年調査する業種もある（物品賃貸業・情報サービス・広告業・クレジット業・エンジニアリング業）

1. 事業所数

デザイン業務を営む事業所数は2903で前回は114%の増加でした。このうち、個人経営等の事業所が1011で全体の35%を占めており、個人経営等の事業所の比率が比較的高い割合となっています。また、本・支社別では、単独事業所が2654事業所（構成比91.4%）と圧倒的な割合を占めています。（表1）

従業者規模別にみますと、「1人～2人」が1222事業所（構成比42.1%）と最も多く、次いで「3人～4人」が705事業所（同24.3%）、「5人～9人」が598事業所（同20.6%）の順となっています。一方、「30人以上」は、わずか46事業所（同1.6%）となっています。（表2）

2. 年間売上高

デザイン業の年間売上高は1,891億円で前回は20.4%（年平均6.4%増）の大幅な増加となっています。これを従業者規模別にみますと、従業者規模が大規模ほど前回の伸びが大きいことが分かります。（図1、表2）

主要項目	単位	平成10年調査	平成7年調査	対前回伸び率
事業所数	数	2,903	2,605	11.4
年間売上高	億円	1,891	1,570	20.4
従業者数	人	15,319	13,898	10.2
うちデザイナー	人	11,998	10,262	16.9

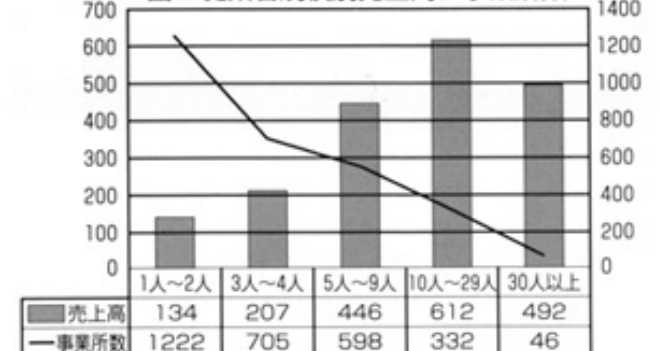
表1. 経営組織別表

経営組織別	事業所数			従業員数 (人)	売上高 (百万円)
	合計	単独事業所	本社 支社		
合計	2,903	2,654	116 133	15,319	189,085
会社	1,892	1,654	110 128	13,294	177,784
個人等	1,011	1,000	6 5	2,025	11,301

表2. 従業者規模別年間売上高、事業所数

従業者規模別	平成7年		平成10年			
	売上高 (百万円)	構成比	売上高 (百万円)	構成比	前回は	事業所数
合計	157,034	100%	157,034	100%	20.4	2,903
1人～2人	12,391	7.9	12,391	7.1	8.2	1,222
3人～4人	18,495	11.8	18,495	11.0	12.1	705
5人～9人	38,246	24.4	38,246	23.6	16.5	598
10人～29人	50,191	32.0	50,191	32.4	21.9	332
30人以上	37,710	24.0	37,710	26.0	30.4	46

図1. 従業者規模別売上高、事業所数



3.業務種類別年間売上高

売上高を業務種類別に前回と比較してみると、「デザインコンサルタント」(前回は94.0%増)の大幅増加となり、「ディスプレイ、インテリア」が(同▲13.3%減)減少となっています。つぎに、構成比をみますと「グラフィック」が前回同様約4割を占めています。また、「ディスプレイ、インテリア」がインテリアデザインの大幅な減少により前回よりも構成比が縮小しています。(表3)
注:「その他」には、クラフト、ジュエリー、パッケージ、サイン、テキスタイル、ファッション、マルチメディア、その他のデザインが含まれる。

4.契約先産業別年間売上高

売上高を契約先産業別にみますと、「製造業」が前回比42.6%の大幅増加となり、次いで「同業者」が同29.5%の増加、「その他産業」が同23.1%の増加となっています。しかし、「サービス業(デザイン業を除く)」は同▲5.5%の減少となっています。構成比は「製造業」が(構成比38.9%)最も高く、次いで「卸売・小売業、飲食店」(同17.9%)となっており、前回と大きな違いはありません。(表4)

5.従業者数、デザイナー数

デザイン業務に従事する従業者数は15,319人で前回比10.2%の増加となっています。このうちデザイナーは11,998人で前回比16.9%増加となっており、全従業者数の増加に大きく寄与しています。デザイナーを職種別にみますと、「グラフィックデザイナー」が6,695人と最も多くなっています。さらに、デザイナーについて男女別にみますと、男性が7,848人(構成比65.4%)、女性が4,150人(同34.6%)前回は比べ「グラフィックデザイナー」で女性の割合がやや高まっています。特に、「インダストリアルデザイナー」は男性が女性の約6倍となっています。(表5)
☆注:デザイナーの内訳は、複数回答のためデザイナー合計と一致しない。「その他」には、クラフト、ジュエリー、パッケージ、サイン、テキスタイル、ファッション、マルチメディア、その他のデザインが含まれる。

表3.業務種類別年間売上高

区 分	平成7年		平成10年		
	(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	前回比
合 計	157,034	100%	189,085	100%	20.4
インダストリアル	10,592	6.7	13,365	7.1	26.2
グラフィック	67,931	43.3	82,366	43.6	21.2
ディスプレイ、インテリア	36,445	23.2	31,587	16.7	▲13.3
デザインコンサルタント	4,892	3.1	9,492	5.0	94.0
そ の 他	37,174	23.7	52,275	27.6	40.6

表4.契約先産業別売上高

契約先産業別	平成7年		平成10年		
	売上高 (百万円)	構成比	売上高 (百万円)	構成比	前回比
合 計	157,034	100%	189,085	100%	20.4
製 造 業	51,556	32.8	73,528	38.9	42.6
卸売・小売業、飲食店	33,482	21.3	33,817	17.9	1.0
建設・不動産	9,746	6.2	10,388	5.5	6.6
サービス業(デザイン業を除く)	18,313	11.7	17,302	9.2	▲5.5
公 務	8,181	5.2	8,959	4.7	9.5
同 業 者	16,933	10.8	21,924	11.6	29.5
そ の 他	18,823	12.0	23,167	12.3	23.1

表5.従業者数及び男女別デザイナー数

区 分	合 計					
	(人)	前回比 (%)	男 (人)	前回比 (%)	女 (人)	前回比 (%)
従 業 者 数	15,319	10.2	-	-	-	-
デザイナー合計	11,998	16.9	7,848	13.5	4,150	23.8
インダストリアル	1,192	12.9	1,031	15.0	161	1.2
グラフィック	6,695	22.4	4,261	20.0	2,434	26.9
ディスプレイ、インテリア	2,700	7.4	2,012	10.7	688	▲1.8
デザインコンサルタント	818	19.8	654	17.8	164	28.1
そ の 他	6,197	36.4	4,263	43.2	2,038	30.0

☆本資料についてのお問い合わせは、下記をお願いします。
なお、調査結果の詳細は「平成10年特定サービス産業実態調査報告書デザイン業編」として、公表(平成11年12月発行)されています。

〈問合せ〉通商産業大臣官房調査統計部 生活・サービス産業統計調査室(TEL03-3501-1511 内線2379~2380)

〈記〉SaDA広報委員会

堺デザイン協会創設の精神

『現在・そして未来、これから…』

出席／岡村 筭理事長 川崎 浩 垣村三平 小田順子 金子誠之助
上野あきら 高木 外 森 達男 岡本安吉 山崎 晶(発言順)
司会／館野羊一 岡村松三(事務局)



岡村 筭 本日は「これからを考える」座談会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私ども本年度の理事のメンバーは日々堺デザイン協会(以下SaDA)の活動に努力してまいりました。理事会は定期的に会合を持ち、活動の計画立案、推進、会員各位の要望にいかにお答えするか、地域へのデザイン関連提言などの在り方など、議論してまいりました。例えば、現在、『会員のポートフォリオ』のご提出のお願いをいたしております。また情報の早期伝達を考えるため「アンケート」を実施してご返事をお待ちしております。これらは堺デザイン協会の新理事会メンバーが活動を活発にするための大切な基礎資料とさせて頂くためです。どうぞよろしくお願いたします。

さらにSaDAは会員各位への情報発信をしよう、また交流の場を作ろうと考えております。私は会員相互の課題の発見や、提言を行ないたいと思っています。そこで、理事会一同として、今回先輩諸兄にもご意見を伺おうということになりました。

このようなことで、本日の座談会は当、堺デザイン協会の「未来」をどう築くかを考えるためにお集まり戴きました。また『会報SaDA』が20号を数えましたこともあり、記念号と致したく、これを機にこの堺デザイン協会創設当時の思い、そして現在のデザイン界の問題点、『これからのSaDAの在り方』を話し合っていたいただき、私共の指針づくりの基礎としたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

館野羊一(司会者) 岡村理事長、ありがとうございました。ただいまお話しいただきました通り、堺デザイン協会の『これから』を考え、より活動を活発にするため、お気軽にお話しをいただきたいと思っております。進行は3部に分け、(1)発足当時の思いや理念、(2)SaDAの現

在について、そして(3)SaDAのこれからはどうあるべきかに分けて、お話し頂きたいと思っております。

早速ですが本日は創設からご苦勞されました川崎さん、垣村さん、小田さん、金子さん、高木さん、上野さんにご出席いただいております。まず発足当時の熱意とご苦勞について、お話しをいただきたいと存じます。まず初代理事長をなさいました川崎さんからお願いいたします。

第1部

創設当時の情熱と思いに学ぶ



川崎 浩 はい、わかりました。まず、本日はご案内いただきましてありがとうございます。また創設当時の経過をお話し出来るのも楽しいことでもあります。これはSaDAのデザイン団体としての在り方や地域での活動のこれからを考えるのに参考にしてください。

設立総会は昭和58年12月2日です。その半年前、7月5日の設立準備会の案内状に13人の世話人が列記されています。その時の私の挨拶の草稿がありますので一部を読んでみます。

「…昨年の春(昭和57年)、市役所に年賀の挨拶の際、「堺は文化・歴史の古い町でありながら今一番必要とされているデザインの団体が無いようですが、一つ何んかの形で集まってみたらどうですか」……」という事で総務部長の横山 平さんから商工農政部長(現在の経済局長)の明渡利家^{あきと}さんを紹介されました。名刺にアケドの振り仮名と昭和57年2月26日の日付けが書き込まれています。そして、堺でデザイン事務所を開いている人

という事で岡村 筍さんを紹介されました。日付けは昭和57年4月9日とあります。ここで当時のデザイン業界の動きを話します。在阪の14団体による大阪デザイン団体連合が昭和56年の10月8日が設立総会です。また国際デザイン交流協会は、昭和57年1月28日に財団法人として設立しました。連合の方は提唱者として2年程、財団は運営委員の一人としてそれぞれの発足に拘まりました。そんな事が前述の「堺にもデザインの団体を」という発言になったと思います。準備会まで1年半、月に1回、定例的に集まり、各デザイン団体の名簿より堺に在住、または職場がある人を取り出し各団体毎に1・2名の世話人を頼みました。そして54名中33名の参加表明がありました。とりあえず会則らしきものを作り1年半の後、7月の準備会にこぎつけた次第です。名簿関係は主として岡村さんで、中に堺近辺の高校の美術工芸担当者名簿まで作られています。会場は開館したばかりの堺市立勤労会館で初代館長は明渡さんです。明渡さんにはその後、何かと支援や助言を戴きました。平成3年に惜しくも亡くなられました。準備会から設立総会までの半年間、私の手帳には12回の会合の予定が書いてあります。中にSaDA・あかがねと書いたのがあります。『あかがね』というのは三宝伸銅(株)の立派な社員クラブで、世話人の浅野正道君の世話で、安くて豪華な会食が楽しみでした。この半年間は精力的に、会則の成文化と、発会式とその後の記念パーティーの細部の詰めをしたわけです。会則は金子誠之助さんをお願いしまして、金子さんは日本インテリアデザイナー協会の支部会則・選挙規定を初めて作った人です。それに垣村三平さん。垣村さんには永い行政との関わりから、文章表現の難しいところをやってもらいました。私は「あまり細かい事は決めんと大きく押さえた方がエエと違いませんか」と言っただけです。よく出来た会則で、目的の項に〈会員相互の分野を超えた交流と研鑽により……〉とあり、また会員資格として〈デザインに関して相当の学識経験を有し……〉と実にうまい表現です。ご両者の努力に、読むたびに感謝しています。次は発会に向けての準備ですが各種の印刷物があります。案内状、招待状、趣意書、済んだ後の札状、これは招待者と来賓用と別でした。私は全部、保存していますが、それぞれの用紙、

活字、文字の配列、いわゆる印刷デザインは岡村さんの労作です。それから文案、粗稿は私ですが成文化は桑原正嗣さんです。永くフクスケ(株)の広報担当としてこられた力量を発揮して頂きました。翌昭和58年1月27日のシャトー南海での発足記念パーティーは、当時堺にはホテルらしいホテルがなく、一つの自慢でもあったと思います。記録にご招待12人、ご来客32人、会員27人、合計71名とあります。市長、議長、会議所会頭が来られています。ご来客というのは賛助会員になって下さった企業の代表の方や各デザイン団体の長の方々です。祝電の中に地元出身の国会議員、大阪府知事・岸 昌に並んで堺市医師会長・竹内勝彦という名もあります。万才三唱散会后、玄関までお客さん方を見送った後、会員が再び会場で残った料理とビールでお互い成功を喜びあった事は今思い出しても胸が熱くなります。

司会者 ありがとうございます。まず、設立当時の経過を伺いました。今日のご出席者の中で、今お話しの設定当時ご苦勞をとものにされた方は、どなたとどなたですか。

川崎 浩 世話人の名簿がここにあります。浅野正道、岡村 筍、小田順子、織田義郎、金子誠之助、垣村三平、川崎 浩、桑原正嗣、高木 外、前田 豊、藤尾正昭、松江寛之、森 和雄の方々です。



垣村三平 私は大阪デザインセンターにおりまして、南大阪のデザイン関係の仕事もしていました。堺は当時デザインに関しては、大阪のデザイン組織に頼っていました。堺にデザイン協会を作るが参加しないか、と誘われました。当時、デザインセンターにいて堺の中小企業との関わりが多く、デザイン指導をしていました関係で堺にデザイン協会を作ることは、とてもいいことだと思いました。デザイナーという職種はどちらかといえば、どこでも横の繋がりが少ないものです。発起人の方々とは『あかがねクラブ』でよく集まりました。

集まっては、酒を飲み、話をして御馳走を楽しく戴いたものです。

川崎 浩 準備期間はよく集まり計画を練りました。お酒を飲んで楽しかった。(笑)この集まりでは組織づくりや、会則づくり、選挙規定などを検討しました。そしてお披露目パーティについては粗相のないよう詳細な準備をしました。行政にも入ってもらおうと堺市にもうかがい、ご理解をいただきました。



小田順子 当時私は総合デザイナー協会(DAS)の会員でした。堺市にもデザイン協会が出来るという喜びで参加しました。女性としても歓迎されたと思います。私は服飾デザインからの参加ですが、ファッションデザインは感性の仕事で、やや理論に弱いこともあり、SaDAに入り勉強しようと思いました。当時は、大学でも服飾デザインの分野がありませんでした。文部省もファッションデザインを認めていなかったのでしょうか。東大、京大にもありません。現在も…。(笑)

金子誠之助 わたしはインテリア設計を仕事として参りました。SaDAに入り、他のデザイン界の方々や、異業種の方との交流を楽しみにしていました。創設当時には私は協会の実務を担当いたしました。ただ今のお話の会則を検討し、作成をいたしました。その時の草案がここにあります。あまり細かく縛らない方がいいと、川崎さんらと決めました。会員は堺在住の方と堺を勤務地とする方を原則としました。行政との連携も考え、いくたびか市役所の方ともお会いしました。この堺市にデザイン協会が出来るのはとても楽しみでした。

司会者 堺デザイン協会のような地域を中心に活動をするデザイン団体は当時、どちらにありましたのでしょうか。

垣村三平 京都にあり、神戸にもありました。

司会者 現在、デザイン団体は多くあり、それぞれで活動していますが、SaDA発足当時のように、横断的な異業種のデザイナーで構成している団体、例えばファッションの方と工業デザイナーとが会員にいるというのは、

少ないように思いますが、その点でユニークであったのでしょうか。

岡村 筈 そう言えますが、でも地域のデザイン協会はおおむねそうで、いろいろな分野の人がデザインを通じて、地域での活躍を考えていたようです。

司会者 なるほど、以前から分野を越えてデザイナー同士が話をすることはあったのですね。

小田順子 DASも、デザイナーの総合交流を目指して創設されたのです。

第2部

いま、堺デザイン協会にとって何が問題か

司会者 そうですか。そのことから思うことですが、SaDAでは異業種のデザイナーが集まり、協同して何かを提案したことはありますか。



上野あきら SaDAでは少ないと思いますが、他団体での例をひとつ申しますと、大阪府中小企業団体中央会の青年部連合会では飲食団体から、ある研究課題を異業種協同で考えようという発案がありました。それは移動店舗とは、どうあるべきかという提議でして、早速デザイナーは店舗デザインをする、自動車業界の団体は移動店舗車を考え、飲食団体はどう運営するかなどに分かれて、それぞれ議論しました。10年以上も前のことです。異業種間でこのような一つの課題を討議することは、お互い学ぶことも多いのですが、長続きさせるためには、結局、課題と資金を提供してくれるスポンサーが付かないとなかなか難しいようです。つまり、デザイナーと依頼主やスポンサーとの関係を考えるためのチャンスを多くすることでしょう。SaDAの場合では、さらにデザインに関する協同研究などもできればいいと思います。それはテーマと課題を持って、いろいろなジャンルの会員が

集まるとデザインを通じていい交流が出来ますし、結果を発信できます。現在でもさらに賛助会員との対話を増やして、こちらからも情報を提供して、関係を深め、絆を強くするべきだと思っています。

司会者 なるほど。まず集まれる話題や課題、テーマを作る。地域や賛助会員から、課題をいただければいいですね。SaDAの発信を多くして行きたいです。日ごろも、受信アンテナの感度を上げましょう。



金子誠之助 これまでも、協同で何かできればいいなと思っていました。異業種交流、いいと思います。でも一方では、関西のデザイナーは多くの方が企業内に居られまして、企業同士の競争があり、なかなか繋がらなかった。だからこそテリトリーを越えて交流したいと常々思っていました。これからは企業同士の課題もよく見えるようになって来ましたので、工夫をして交流を実現したいものです。

司会者 もう少し、発足当時、どう考えたかを伺い、今に生かしたいと思います。

高木 外 私も参加は発足当時からです。ミノルタの森さんからJIDA関係で誘われました。先輩たちには生みの苦しみもありだと思い尊敬しますが、同時に作る楽しさもあったのではないのでしょうか。お手伝いすることもありましたが、私は「あかがねクラブ」に集まるのが楽しみでした。(よく飲みました…ネ)(笑い)

外の人々と会えるのが楽しみでしたし。

私は企業内工業デザインが専門で、昭和35年入社です。当時はデザイナー業がまだ創世紀の時代で、会社の中でも数人のチームでした。当時フリーランスの工業デザイナーの先生が会社に見えていて、大事な仕事はフリーの方がされていました。そのため企業内のデザイナーは仕事がなくなるのでは、と心配したものです。だから頑張りました。デザイン団体に入るということなどは後のことです。むしろフリーの方からはデザイナーとして立派でないとJIDA(社団法人日本工業デザイナー協会)などのデザイン団体にははいれないと言われてまし

た。デザイン団体には当時、権威があり、入れてもらいにくい時代でありました。そんなこともあり、企業内で頑張る時代とっていたものです。やがてSaDAが出来るといわれ少し精神的余裕も出来ていましたので、外の人と関係を作りたいと思い、交流にも憧れていましたのでお手伝いをしました。まずは難しい議論より、親睦が大切だと思っています。今もこれからも、人とのつながりを増すべきだと思います。

川崎 浩 親睦団体であるべきか、または研究団体であるべきかはどこでも、議論するところです。後に議論するとして、生みの楽しみだったことのひとつを紹介します。設立総会のあと、関係者に礼状を出しました。岡村さんのいいデザインです。フクスケの広報の桑原さんの名文とともに出しました。SaDAの総会記念パーティでは71名が集まり、素晴らしいことは、会員27名より来客が多いことでした。27人が努力したことによるのでしょうか。この紹介が全部の新聞にも載りました。

第3部 これからのSaDAを考える

司会者 それでは話題を進めるため、SaDAとしてのこれからについて、お話しをして下さい。地域との関係・会員相互の交流・デザイン情報の発信など協会として、果たすべき課題とこれからの運営をどうするのか、在り方や問題点を岡村理事長からお願いします。



岡村 篤 今日と未来についてですが、私なりに感じるところから申しますと、これまで前理事長の川崎さんのお蔭で会としてのタガが外れずに今日まで来ることができました。継続できたのはサロンの運営で交流を大切に出来たからです。何をしたいかの骨組みは創設時にデザイン団体作りをされていた垣村さんが、まとめて下さいました。当時の将来への思いに、1.地域に役立つ、地域と交流のあるデザイン団体であること。2.空港ができ、発展す

「泉北1号線に高架バイパスを…!!」

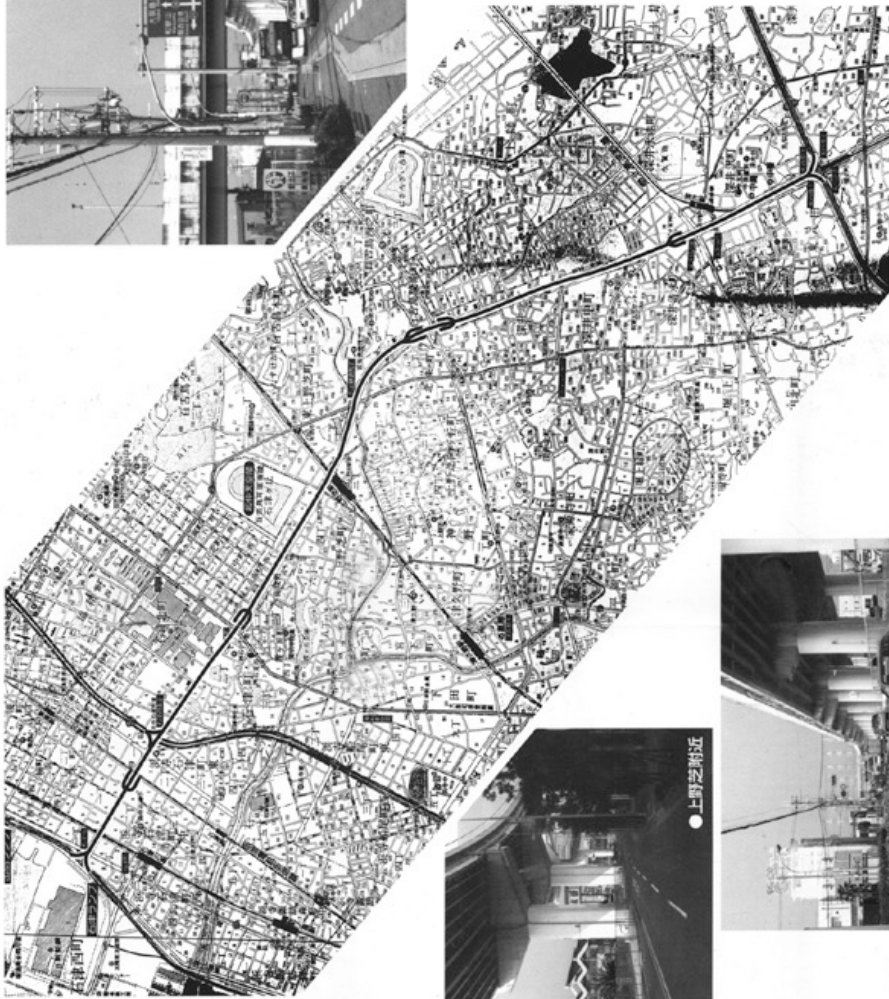
わが町——堺をデザインする。その5

●岡山・姫路・神戸方面 ↔ 京都・奈良・三重方面 ●京都・大阪市内方面 ↔ 関西空港・泉州・泉南方面 ●関西空港・泉州・泉南方面 ↔ 奈良・三重方面

堺市の計画中の都市計画図案があると思いますが、それとは別にまったく異なるデザイナーの立場から提案してみました。
株式会社 アトリエ オカモト
岡本安吉



●泉北1号線の西詰め、石津ランプ付近



●阪神高速堺線、高梁下付近

〈東西の交通が遅れている〉

古くから堺は、南北には紀州街道・熊野街道（小栗街道）、東西には長尾街道・竹内街道・西高野街道と堺をめぐり街道が集中していました。今日では大塚線・堺大和高田線・大阪中央環状線・国道310号線・下石津泉ヶ丘線（泉北1号線）・細加線など主要道路が有りですが、中央環状線・泉北1号線を除くこれらの道路は昔のままの片側一車線である。中央環状線も三国ヶ丘から西、大浜北町までと、泉北1号も上野芝から臨海石津北までの朝夕も麻の状態で、このように堺市は東西に大きく延びる地域を持ちながら、その交通網が著しく立ち遅れている。



●上野芝付近

〈泉北1号線バイパスで渋滞を救う〉

堺市には広い幅を持つ泉北1号線が存在する。道路幅は大阪中環状線よりも広く途中、深井から泉ヶ丘を経て光明池までは高速道路並みの高架道路で設備も整っている。又泉北1号線は取神高速4号湾岸線と取神高速堺線ともいちばん接近しており、阪和自動車道ともいちばん接近した位置に有ると思われる。そこで泉北1号線の西詰め、石津ランプから、上野芝、北条町、深井駅前を経て阪和自動車道の東八田まで約6.5kmを高架バイパスで以て接続し東西の交通渋滞の解消を期してはと思う。

〈渋滞のない公害を出さない社会は経済を救う〉

堺市の西、臨海部には多くの重工業が林立し、それに伴い運輸関係の集積センター、倉庫、石油ガス基地等が多く、大規模の運搬トラック、ローリー等が市内のフェニックス通りを走るのもずいぶんと解用されると思う。石津ランプでは、泉北1号線バイパスと取神高速4号湾岸線と直結、高架で乗り入れ出来る様にし、取神高速堺線高架・阪和自動車道も泉北1号線バイパスと乗り入れ可能にすれば混雑と便利になるとおもふ。



●阪神高速堺線、高梁下付近



●阪和自動車道の東八田付近

堺市民には勿論のこと、湾岸沿いの工業地帯と狭山、羽曳野、富田林、河内長野、等近郊地とも結ばれ、遠くは京都・奈良・三重とも直結出来る。泉北1号線などペッドタウンも随分と便利になるのでは。途中、石津東から上野芝までの狭い区間はいち早く道路幅を拡張し、この泉北1号線バイパス計画を検討して貰いたい。

●関西空港・泉州・泉南方面 ↔ ●奈良・三重方面

関西空港・泉州・泉南方面から《阪神高速4号湾岸線》岸和田SAを過り近郊圏で泉北1号線バイパスにより《阪和自動車道》京都・奈良・三重方面に。

●岡山・姫路・神戸方面 ↔ ●京都・奈良・三重方面

岡山・姫路・神戸方面から《阪神高速堺線》で北湖の多い大市内を通り泉北1号線バイパスにより《阪和自動車道》奈良・和歌山方面に。

●京都・大阪市内方面 ↔ ●関西空港・泉州・泉南方面

京都・大阪市内方面から《阪神高速堺線》泉北1号線バイパスにより、グレイクトに《阪神高速4号湾岸線》で関西空港・泉州・泉南方面に。

る南大阪にデザイン協会がない。南大阪デザイン協会としようか、というぐらいの意気込みでした。当時、北大阪にデザイナーが集まっていたが、南大阪にはデザイナーが少なかった。地域でデザインの話があったとき、受け皿が無い。それではSaDAが受け皿になろうと考えました。常に時の流れの中でデザイン界にも浮き沈みはありますが、堺が当面するテーマや仕掛けを受けたいものです。ですから今も働きかけています。積極的に出来ることは何かを考え、2~3年の内に見えるようにしようと思っています。

司会者 ありがとうございます。このことは積極的に私共、理事会でも計画を議論します。もうお一人、森さんからも創設当時の熱意から、これからへのお話しをして下さいますか。



森 達男 私も垣村さんから紹介を受け、設立から参加いたしました。みんなでよく集まり、ある時は「ひらめの刺身」をいただいたり、遅ればせながらその節はごちそうさまでした。当時、DASでは田中千代さん(ファッションデザイナー)、早川良雄さん(商業デザイナー)などにお世話になりました。会社の仕事が忙しかったので、やや疎遠になったりしましたが、SaDAでは高木さんの事業部会をご一緒しました。私見ですが工業デザインの場合、社会の役割変化で誕生したのがデザイナーではないでしょうか。IDデザインも産業の発達によるものでして、最先端の産業と共にあるのではないのでしょうか。アメリカではロス地方のシリコンバレーがそうであり、デザインは依頼主がお殿様、スポンサーがあって発展するものです。スポンサー無しには、デザインの発達は無いと思う。堺地区には最先端の企業は少なく、スポンサーも少ないと思います。南大阪も繊維、砂糖、セメントの3バク時代を過ぎ、鉄鋼時代、プラスチック時代、また組み立て(アッセンブリー)産業の時代(家電など)を経て、今は情報通信やソフト作りの時代になりました。この流れに対しては、南大阪はどうなのでしょう。SaDAでも考えていますし、

議論しています。人間は喜びと不安の二つの葛藤の中で文明を発達させてきたといえます。不安は治水や医療技術の進歩で解決し、また快適を追いかけたために公害が発生したりしています。デザインはこれらの不安とバランスをとるべきであり、広い目で見るとデザイナーなら解決のアイデアを提言出来るのです。海外でもデザイナーは社会に残るいいものを大切にしています。SaDAも堺に何かを残すように、残るように働くべきであると思います。

司会者 これからの、みんなの不安は何でしょうか。考えて見たい、そして総合的に解決すべきとのご提案だったように思います。次に岡本安吉さんに伺います。岡本さんはいつも堺ウォッチングの特集記事を投稿していただいています。新しい発見も、問題提議もある楽しい記事です。



岡本安吉 ありがとうございます。私はグラフィックの仕事をしています。日頃は堺市内を自転車で回る日々です。だだっ広い堺でして、空襲のせい何かも残っていないという感じです。どうしたら落ち着いた町、堺になるか考えています。よその町が羨ましいと思ったりしています。そんなことから『堺探訪』の記事となりました。ご存じの様にグラフィックの仕事がこの頃、すごく変わってしまいました。写植や写真などが無くなり、製図板も定規も要らず、ポスターカラーも無い。プリンターのインクを買うだけになってるようです。文房具屋さんとも取引が無くなり、今はコンピューターがやってしまうペーパーレスアトリエになりました。どうも足し算、引き算だけであるようで、テクニックを駆使しても、血の通った感じが無く、これでいいのかなーと思っています。できれば愛情のある仕事をしたい。製版屋さん仕事も少なくなっている。紙のお届けも無く、写真送りや、完成原稿もインターネットで流せる(配送)ようになりました。すべてコンピューターのモニター上でやる。文字や写真の組み方などもハイテク上での仕事となり、絵を描くこともなく、

なんとなく愛情が湧かないビジネスとなった。でもこれが技術や時代の変化なのでしょう。進んだ科学技術は利用し、活用すべきでしょう。反面、これで良いのだろうかという分野もあるように思います。病院や老人医療の施設では親切な案内パネルで説明するようにデザインするべきで、伝えたいことによっては、その手段に人間愛のある工夫がいると思っています。

司会者 高速度に技術が進み、例えばデザインプレゼン手法もその変化を受けています。これらはビジネス手法や発想にも変化が迫っています。どう対応するのか、コンピューターとのインターフェースはモニターであり、対話の方法はイメージの世界とも言えます。形には見えているのですが、あまりにソフトが先走ったためか、仮想空間の世界になっています。手法の変化に関してもデザインの何かが変わります。いつもスキルを求めなければなりません。さて将来のことに、もう少し視点を移したいと思います。

上野あきら 31歳からSaDAに参加させていただき、16年経ちました。もう息子が独立して、彼の時代になりつつあります。大阪デザインセンターの付設デザイン研究所で夜間に勉強をして、インテリアをも習いました。思い出の三宝伸鋼の「あかがねクラブ」にもよく集まりました。若い時代にもいろいろ指導を受けました。SaDAの設立総会の議長を指名されたことにはビックリしました。不安でしたが名誉なことであり、やり遂げました。この新人の体験のまま、時が過ぎ、それ以後新人がなかなか入会していません。誘ってはいるのですが、フリーの方は難しいようです。このように私がつまでも若い部類に入っています。大切なことは、これからの若い人に入ってもらえるSaDAになるべきでしょう。若いデザイン関係者を入れたいと思います。

司会者 ほんとに若手に入会をしてほしいですね。これも大切な課題です。さて山崎 晶さんは未来を担う若い学生にデザインを広く教育されていますが、教育関係のお立ち場から、SaDAの未来について、お話をいただけますか。

山崎 晶 今年度も理事を担当させていただいております。私は11年堺に住んでいましたのでSaDAとの関係ができました。いろいろな事をやらせていただきましたが、



広報では桑原さんにお世話になりました。あの形を継承してSaDAニュースを続けました。編集者が変われば、変わっていいとも思っています。つまり団体運営はいつも集まって行動することも大切ですが、寄ってたかってやるものばかりでなく、個人の判断で、またどなたかの努力で継続、実行されるものもあると思います。担当した以上、個人が頑張るべきでもあります。民主主義的運営はどうも…と思うこともあります。ただ選挙は民主的にするべきであります。選挙は民主的であるべきだが実行は個人によるのであります。そうしないと継続も出来ないでしょう。大切なことは将来も続けることであると思っています。

垣村三平 作る時は楽しいが、続けるのは難しいものです。理事の方は大変ですが、でも続けて下さい。祈願しています。

川崎 浩 私は大阪の生まれですが、学校はすべて堺。それ以来、73年堺の同じ町内に住んでいます。以前(平成元年)、堺市の技術職の方にデザインの話をした事があります。堺市にはどれほどのデザイナーがいるか、ということです。タウンページ(職業別電話帳)にはデザインの部は11~12名ぐらいしか名前が無かったです。当時の大阪は、約2000名(10ページ)、東京は5900名ぐらい数えられました。大阪市は散髪屋の数とデザイン事務所の数が同じと云われたものです。そして、画廊は2軒(今でも4軒ぐらい)しかないのです。堺の人口は80万人で、大阪は200万人いるとはいえ、少しかっこが悪いと思います、と申し上げました。「かっこいい」堺市にしたいのです。私はこの「かっこええ」という言葉が大好きなのです。

司会者 それでは、これからの堺デザイン協会が活動するべきことや、目標をお願いします。

垣村三平 堺周辺はこれまでは工業都市、それとベッドタウン。それだけではないかと思う。これからは産業ソフトや、文化を造る都市となるべきでしょう。歴史は多くあり、遺跡や古墳も多い。人のつながりを大

切にする複合産業文化都市・堺ともなっていきたい。

司会者 先日グッドデザインの審査会で、優秀得票を得た植木剪定鋏がありました。私は何か、海外の商品に類似品を感じたので調査を依頼しました。そうするとデザインセンターから調査の結果、堺の『アルスコポーレーション』の製品カタログが送られて来ました。少し色の違いはありましたが、似ていたので『優秀』にはしませんでした。堺を代表する企業のデザインでしたので嬉しく思いました。

川崎 浩 アルスさんは、SaDAの第2号の賛助会員です。第1号は堺商工会議所です。

司会者 そうなんですね。堺で自慢の企業はどちらの会社ですか。

岡村 菊 鳥野工業、福助、ダイキンもそうでしょう。

すぐ、出来ること。

小田順子 まとめになるかどうか分かりませんが、お役に立ちたいということで、4つの意見をお話したいと思います。1つ目は、SaDAの誕生の時の感動は今だに忘れません。まるで成人式を迎えた様に思いました。堺に住んでいて大阪で仕事をしていたが、堺にデザイン団体が出来ると、これは素晴らしいと思い参加しました。2つ目は、異業種デザイナーの相互交流のことで、これはもっと古くから行なわれていて、毎日新聞社が音頭を取って出来た、DAS(総合デザイン協会)で去年40周年を迎えました。ですからデザイナーの相互交流は40年前から行なわれていたことになります。異業種については私のファッションの仕事から見ましても、大小路の町並み作りを、ファッション感覚で提案してほしい、とのことで行政の方や、都市計画の方と参加しています。ジャンルの違いを越えて、デザインをしたことになりませんか。女性では私が初めて参加していたようです。また最近、企業も異種の能力を持つデザイナーの採用を始めました。私の大学に本田技研から、ファッションデザイン専攻の学生を採用したいと言ってきました。ファッション感覚で車関係のデザインをさせたいのだそうです。3つ目は、これからのデザイン団体は、企業が入手出来ない情報を発信、提供すべき

だと思います。SaDAの発信地は堺からですが、それだけでなく広く世界中の流れや、傾向、トレンドの案内など、大切だと思います。正会員や企業の賛助会員の方がSaDAに魅力を感じる事、それが大事だと思います。情報入手にはお金がかかるのでSaDAが情報発信すると企業の人も、もっとSaDAに関心を持ってくれると思います。情報発信で刺激、SaDAの魅力をつくる、カルチャーショックを与える方がいいのではないですか。そのためには、私も少しはお役に立てる事があると思います。4つ目は、私に出来る事として、ファッション環境学会でフォーラムを各地で催す機会があります。ですから、その分野に色々な方がいらっしゃって、講演を依頼する事も出来ると思います。デザイン誕生の秘話などは楽しいものです。例えばルーズソックスを考えられてブームになった、おもしろい創作者(元・厚木ナイロンの方)もいらっしゃいます。発想がユニークで参考になります。



お役に立てるもう一つは、インターカラーの国内メンバーですので、2年先の流行色のお知らせをすることが出来ます。インターカラー(国際流行色協会)とはヨーロッパ18ヶ国のメンバーで構成して、2年先の色を提案し、これに基づいて、日本の流行色協会が議論し、調査をして日本版を半年後に発表します。協力できる事はこのような事です。

司会者 素晴らしいご提案をありがとうございます。今、お話しを伺って、多くの正会員の方や、賛助会員の方がお持ちの情報やご研究、またご指導などをいただけたら、協会としても相互の研鑽を高められると思います。また私が今日、小田さんを存じあげることが出来ましたように、もっとSaDAの各会員と知り合いたいと思います。この度のマイポートフォリオの提出を会員全員にお願いしたのも、これを集め発刊して、メンバー相互に知り合い、それぞれの専門分野を知り、

フォーラムや研究交流をしたいものであります。

森 達男 別の分野で、堺については、一つの夢があります。私は、文化の香りのする地域には、どこでもそこにいい人形があるように思います。奈良にも、長崎にも、金沢の獅子頭のようなものもあります。人形は人に親しまれるもので、人々が大切にしてきた何かによるのだと思います。人形があっていい。作家を育てるか呼んで来てもいいのですが、堺にそんなものが生まれるようにしたいと思います。人形は願いを叶えるもので、希望が叶えられるものなのでしょう。堺に残る文化を作ろうという事なのです。



高木 外 なるほど、そうですね。

また組織も、人を残して続けて行く事が大切だと思います。初代は偉すぎるのが常で、2代目は慎重になる時代、そして今のSaDAは孫の時代に当たり、余裕が出来る反面、感覚が変わって行くし、改革をすることも多くなると思います。今後も会員を誘い増やしたいものです。SaDAに入る事がステイタスだった、そのようにもう一度したいと思います。

森 達男 一つの時代が去り、一つの時代が来るといわれます。種を蒔き、芽を探して、育てたいものです。

山崎 晶 世の中の仕組みに大きく係わって、リードして発想が得意のデザイン関係者がもう一度権威を取り返すべきでしょう。デザイナーも企業に対する所属意識が少なくなっているのですが、自らが、デザインの仕事を大切に、そこからの経営や社会への提言が出来るはずなのです。SaDAでも理事一人一人の力を十分に発揮して行き、その結果が全員の刺激になるようにしたいものです。まず、行動ありきでしょう。民主主義はデザイン団体には似合いません。個性的発想や、意見、研究をぜひ披露して欲しいものです。

岡村 筈 これからは、堺デザイン協会が地域でどのように、ふれあいを広げるかを常に意識しています。デザイン界もお話しがありました様に、発想の道具、伝達の方法、ビジネスストリームなども既に変わって来て

います。バーチャル環境でのビジネスに傾いています。そんな中で皆さんと一緒に努力してテーマを決め、堺デザイン協会から発信をして地域のプロジェクトに参加し、リードしてゆけると思っています。また是非、そうあってほしいと思います。



司会者 現在は創設当時ほど、デザイナーという職種は「カッコいい」職業ではなくなっているのかもしれませんが、協会活動はもっと活発であるべきだと考えます。しかし、混乱の時代が早回りする現代だからこそ「発想プランナー」としてのデザイナーの出番だと考えます。皆さんの熱心なる参加によりまして、活発なSaDAにして行きたいと思えます。本日は多くのご意見とご提案ありがとうございました。

出席者プロフィール

- 岡村 筈/オカムラデザインプロ代表・展示計画デザイン
- 川崎 浩/元(株)大丸 設計部長・大阪芸術大学
- 垣村三平/元(株)龍村美術織物・元大阪デザインセンター常務理事
- 小田順子/神戸芸術工科大学・ファッションデザイン
- 金子誠之助/元(株)高島屋 設計部室長・武庫川女子大学
- 上野あきら/セルリアン代表・グラフィックデザイン
- 高木 外/元(株)クボタ・工業デザイナー
- 森 達男/デザインコミュニティー代表・工業デザイナー
- 岡本安吉/元(株)アトリエオカモト代表・グラフィックデザイン
- 山崎 晶/武庫川女子大学
- 館野羊一/元(株)高島屋 ハウジング部長・インテリアデザイン
- 岡村松三/オカムラデザインプロ・SaDA事務局長

(いずれもSaDA正会員の方々です。)



岡村松三/SaDA事務局長

「インターカラー」と、ファッション環境学会について

小田順子氏ご提供資料より

インターカラー加盟各国による提案色選定



インターカラー（世界的に最も早い時期のカラートレンド情報）

インターカラー加盟国（18ヶ国）

日本（JAFCA）、西ドイツ、イギリス、ハンガリー、イタリア、東ドイツ、オーストリア、フィンランド、オランダ、フランス、スイス、ブルガリア、スペイン、ベルギー、チェコスロバキア、ポーランド、中華人民共和国、ルーマニア。



カラーとファッショントレンド情報 （カラー情報のほか、素材、シルエット情報も加わる）

民間団体によるカラー情報

〈色彩情報機関〉トレンドカラー、カラー解説、配色トレンドなど。
CAUS（カウス）／アメリカ、CIM（シム）／フランス、ICA（アイ・シー・イー）／オランダ・アメリカ・イギリス
〈素材協会〉カラートレンドのほか、素材、シルエットなどのトレンドが加わる。
IWS（アイ・ダブル・エス）／国際羊毛事務局、IIC（アイ・アイ・シー）／国際綿花振興会、その他。
※この時点でJAFCAのほか、インターカラー加盟各国の色彩情報機関のトレンドカラーが発表される。



素材展と素材トレンド

素材展示会Ⅱ（服地中心）

アイデアコム／イタリア（チェルノッピオ）、インターストップ／西ドイツ（フランクフルト）、プラトーエクスポ／イタリア（フィレンツェ）、ブルミエールビジョン／フランス（パリ）・トレンドブック発行、INDIGO（インディゴ）／フランス（リール）、東京スタッフ／東京・プレビュー発行、アイデア京都／京都、その他。

合繊・紡績メーカーによるトレンド（日本）

自社のトレンドカラーとともに、ファッショントレンドを発表。合繊8社、その他。



アパレル展示会とデザイナーコレクション

〈デザイナーコレクション〉

パリ（フレタボルテは半年前、オートクチュールはシーズン直前）、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、東京、その他。

〈アパレル展示会〉

サロンドフレタボルテ／フランス（パリ）、IGEDO（イグド）／西ドイツ（デュッセルドルフ）、TFW（東京ファッションウィーク）／東京、FACT（ファッション・コンベンション・オブ・トレード、旧称OFF）／大阪、その他。

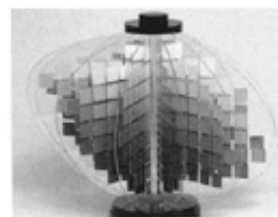
インターカラーの情報発表、時系列フロー

●ファッショントレンド情報の中でも最も早い時期（約24ヶ月前）に、インターカラーが選定された後、約18ヶ月（1年半）前というタイミングで、各国の色彩情報とともにJAFCAディレクションカラーが選定される。色票で発表されるディレクションカラーは、その約1ヶ月後に素材の形で、色数も増やして表現されるものがJAFCAアプリケーションカラーである。

※注記：インターカラー加盟は、各国を代表する色彩情報機関1団体に限定されている。日本は日本流行色協会（JAFCA）がこの団体である。

●実シーズンの約12ヶ月（1年）前という時期になると、世界各地でトレンドカラーが実際の素材に色出しされる素材展が開催される。この時期にその後の市場動向を踏まえてディレクション及びアプリケーションカラーとその後の新色の中から、とくにプロモートされる色を絞り込んだものがJAFCAアセンディングカラーである。

●実シーズンの約6ヶ月（半年）前という時期になると、トレンドカラーはいよいよ製品（アパレル＝既製品）に色出しされ、世界各地でアパレル展示会や各デザイナーコレクションのショーが開催される。「月刊流行色」ではこの時期に、先に発表されたJAFCAカラーをご紹介している。



ファッション環境学会 事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-22-1

文化女子大学家政学部第一被服研究所 内

現在の堺デザイン協会賛助会員さんご紹介

アルスコポレーション株式会社

〒590-0939 堺市九間町西2-2-32 TEL 0722-29-2070

株式会社和泉利器製作所

〒590-0934 堺市九間町東1-1-5 TEL0722-38-0888

大阪ガス株式会社

〒590-0973 堺市住吉橋町2-2-19 TEL0722-38-2335

大塚オーミ陶業株式会社

〒540-0021 大阪市中央区大手通3-2-21 TEL06-6943-6695

堺市議会議員 松村 寿

〒590-0071 堺市北向陽町1-2-32 TEL0722-32-2255

堺商工会議所

〒591-8025 堺市長曾根町130-23 TEL0722-58-5581

堺線香工業協同組合

〒590-0943 堺市車之町東1-1-4(株)梅栄堂内 TEL0722-29-4545

堺刃物商工業協同組合連合会

〒590-0937 堺市宿屋町西1-1-24 TEL0722-27-1001

税理士柴田廣志事務所

〒590-0016 堺市中田出井町3-2-4 TEL0722-28-0888

株式会社シマノ

〒590-0824 堺市老松町3-77 TEL0722-23-3506

大醬株式会社

〒590-0823 堺市石津北町20 TEL0722-43-0184

ナカバヤシ株式会社

〒599-8116 堺市野尻町218 TEL0722-85-2525

ばいこう堂株式会社

〒550-0013 大阪市西区新町3-4-3 TEL06-6532-5460

次号より賛助会員さんを順次ご紹介の予定。

堺デザイン協会 第16回通常総会 開かれる

事務局



平成11年6月25日堺デザイン協会第16回通常総会が堺市内JR堺市駅近くのサンスクエア堺にて午後6時より開催された。

司会館野理事の発声により始まり、本日の出席者が11名、委任状が12通、計23名は総数33名の2分の1以上であり、本会が有効に成立することを事務局が述べた。議事録署名人に北川正氏、古本和宏氏が指名された。次に議長には岡村理事長が当会規則20条により選出され、本会の開催挨拶を述べ、来賓の紹介がなされ、議事にはいった。

第1号議案 平成10年度事業報告は崎田理事より報告があり、収支決算報告は高木副理事長より報告された。そしてその決算が適性である旨、金子監事より報告された。

第2号議案 役員改選について垣村三平氏より報告。新理事の紹介があり、理事長選出のため、別室に移り互選する。その結果は以下の通り承認された。

第3号議案 平成11年度事業計画案を崎田理事より、収支予算案を高木副理事長より説明し承認された。以上議案はすべて終了、特に質問等はなく、最後に高木副理事長が挨拶を述べ、議事は終了した。

総会終了後、懇親会を行なった。

ご来賓

堺市市長公室文化振興部次長 鶴埜清治様
 (財)堺市中小企業振興会理事長 富岡光夫様(代)
 (社)堺観光コンベンション協会事務局長 平田四十三様

顧問	橋谷豪男	堺市長
理事長	岡村 筈	
副理事長	高木 外	
理事	上村あきら	
理事	岡本安吉	
理事	崎田公明	
理事	館野羊一	
理事	山崎 晶	
監事	金子誠之助	
監事	森 達 男	



ベルマージュ堺見学会

事務局

同日、総会に先だって堺市駅前開発事業の一環であるベルマージュ堺の高層住宅を見学した。堺市の文化振興部次長鶴埜氏のご好意で実現したもので、当日はあいにくの雨で高層から見る眺めはあまりよくなかったのですが、それでも視界はすばらしく、堺はもとより、大阪淡路島また明石大橋を望む雄大な眺めは、さすが南大阪随一の建物にふさわしいものであった。この見学会の開催にご協力頂いた堺市文化振興部及び住宅・都市整備公団の方々に深く感謝申し上げます。



山歩き豆知識データ 館野羊一

■ダイヤモンドトレールを歩測しました。……その2
ダイヤモンドトレールは横尾山バス停留所から、岩湧山、紀見峠、金剛山、水越峠、葛城山、竹内峠、二上山そして穴虫峠に降りて、屯鶴峰を眺めて終わる。全長45kmといわれています。前回の報告では、横尾山から水越峠まで約37.69km、58,723歩のデータを記載いたしました。今回は水越峠から葛城山、竹内峠、二上山を肩でかすめて穴虫峠、そして屯鶴峰までのデータです。

1. 水越峠～葛城山～竹内峠

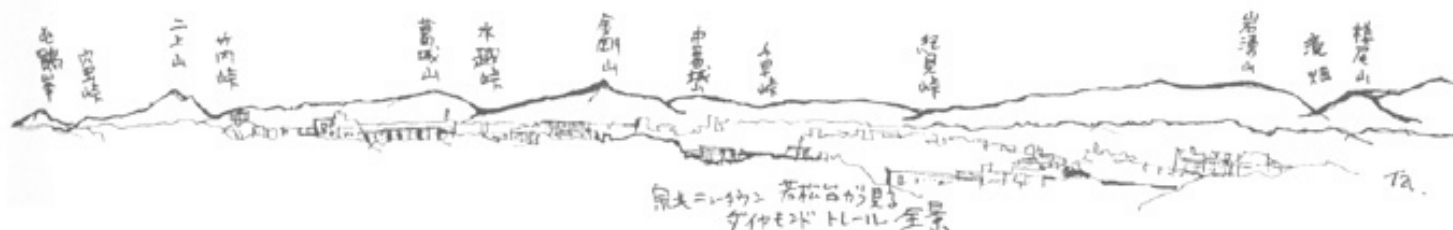
- 水越峠～葛城山山頂(1時間20分・2.5km)……3,860歩
タイトレ45kmの中で最もきつい急坂。
 - 葛城山山頂～持尾峠(55分・3.6km)……5,634歩
 - 持尾峠～岩橋山山頂(35分・1.8km)……3,176歩
 - 岩橋山～平石峠(35分・1.67km)……2,998歩
 - 平石峠～竹内街道の峠～二上山登山口(50分・2.85km)
……4,699歩
- ＜3時間15分・12.4km／20,367歩＞

2. 竹内街道から穴虫峠そして屯鶴峰に到着

- 二上山登山口～山頂下穴虫峠への分岐(25分・1km)
……1,786歩
 - 分岐点標示～穴虫峠・香芝タイトレ入口(70分・3.3km)
……5,131歩
 - タイトレ入口～穴虫峠～屯鶴峰を見る(15分・0.8km)
……1,195歩
- ＜1時間50分・5.1km／8112歩＞

■ダイヤモンドトレール全行程総歩数……合計87,202歩
推定距離歩数×0.62=54.1km(公称45kmと言われている)

☆季節の移ろいも美しく、整備された大阪府・和歌山県・奈良県の境界をワングルする。全行程を6回くらいに分ければ、日帰りを楽しめるのです。



晶子
その子
はたち
くしに
ながる
くろかみの
おごりの春の
うつくしきかな
(表紙の時・寛正寺境内より)



〈編集後記〉

会報SaDA20号、やっとお届けいたします。多くの方々から原稿をいただきながら、時期を逸しつつ時が過ぎました。記念号とすると決めてから、広報編集委員が理事会に回り幾つかの企画を決め、まとめを急ぎましたが今日までかかりました。一重に広報委員の不手際です。遅くなりましたことをお詫びいたします。これからは小さくても定期的に発行するようにしたいと思います。

記念座談会には多くの先輩の方もお集りいただいて、創設当時の情熱や「夢」を教えていただきました。これからの堺デザイン協会のありかたについても、多くの助言をいただきました。つきましては編集委員として、今後のSaDAについて3つのお願いをいたします。

1つ目、SaDAは新しい2000年に、この座談会にもあります通り、フォーラムや研究発表討論、事業活動の実行などを行って参りますので、奮ってのご参加をお願いいたします。

2つ目は会報SaDAの紙面をご利用いただきたい、ということです。研究発表の場として、また討論の場として投稿をお願いいたします。文芸欄の新設も考えておりますので、創作されたものでしたら歓迎いたします。またデザイン論評や論文、トレンド指針など、各分野での執筆をお願いいたします。

最後に、いま各会員にアンケートやマイポートフォリオのご提出をお願いいたしております。活動の立脚点を考えるのに大切な調査ですので、ご提出をお願いいたします。

(館野 記)

●表紙・裏表紙デザイン 岡本安吉

堺市からの初春の日の出と大仙公園内の茶庭のつくばい。

会報 **SADA** 20号
2000年2月27日

発行 堺デザイン協会

〒590-0071 堺市北向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内
TEL.0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会
館野 羊一 崎田 公明